

2019 年度 唐津市立馬渡小中学校 校内研究計画

1 研究主題

研究主題(仮): 思考力・判断力・表現力を高める学びの追求

～家庭学習と読解力を高める学習指導を通して～

2 主題設定の理由

(1) はじめに

児童生徒は、島の最盛期の人口に比べると現在の人口は 1/5 の 350 人にまで減っていることや、島を取り巻く自然環境は次第に水産業を営むには困難になりつつあることなどを家族や島の住民から聞いている。子どもたちは、将来島に留まるにしろ、島を出て自活するにしろ、今後の日本が直面する社会・環境・エネルギー・資源・食料・人口等の問題に正面から向き合って生きていくことになる。彼らのおかれた環境で活躍していく上で、最後に頼ることのできる自己を育てることは大変重要である。そこで、9 年間の小中連携の学習過程を通じて、職員が共通の意識をもって子どもたちの育成を図ることが重要である。

(2) 児童生徒の実態

本校は少人数(4 月 1 日現在 35 名)の小中併設校であり、授業規模も極少人数(最少 2 名)で行う学年・教科もある。授業や小中児童生徒交流等で、人前での発言の機会に恵まれているため、授業や全校行事においても、自分の感想等を言うことには抵抗のない児童生徒が多い。しかし、自ら課題を設定して計画し実践していく力や、自分の考えを論理的にわかりやすく話す等の思考力・判断力・表現力が十分育っていないのが現状である。また 9 年間、単一学級で人間関係が固定化されているため、児童間、生徒間の学習に対しての競争意識が低い傾向にある。家庭環境や生育歴により学習の習慣が十分に身につけていないことから基礎学力の定着が不十分な児童生徒も見られる。そのため学力には個人差が大きい。

(3) 研究の過程

これまで、本校では、“主体的・対話的で深い学びの追求”を目指し学びの常態化に努めてきた。研究を通して、各学年や教科領域、あるいは極小規模に応じた主体的・対話的で深い学びを「あいタイム」として具現化し、それを共有することで一定の成果を収めることができた。また、昨年度は自己評価としてルーブリック評価を取り入れ、児童生徒の学習意欲を高め、S 評価取得に向けた手立てを授業に盛り込むことで、積極的に S 評価を目指す児童生徒の育成を図ることができた。この評価により、児童生徒の自己評価と教師評価のずれを減らすことができた。

取組の中で、改めて明らかになってきたことは、児童生徒に基礎的基本的な知識の定着や、読み書き計算の定着や読解力などの重要性である。あいタイムで、一定のアウトプットする能力の育成が図ることができた今こそ、インプットする能力と、基礎的基本的な知識の習得が望まれる。それには、家庭学習の指導も欠かすことはできない。そこで、「思考力・判断力・表現力を高める学びの追求」をテーマに掲げ、サブタイトルとして「家庭学習と読解力を高める学習指導を通して」ことにした。

そこで本年度は以下の三点を重点とする。

一つ目は、「読解力」の育成である。(授業改善部)

二つ目は、学習習慣を身につけることと、学習の定着と思考力をさらに高めるための家庭学習指導の工夫である。(学習習慣部)

三つ目は、実生活のアウトプットの場面で、授業で培った読解力を発揮して社会に出た時に役に立つ実践力を学校の行事運営の場面で身につけさせることである。(交流活動推進部)

これら三つの取組を通じて、「最後に頼ることのできる自己」を身につけた 21 世紀を生き抜く児童生徒の育成を図りたいと考え、本主題を設定した。

3 研究の目的

- ・授業において考え方・能力を養わせることをねらいとした主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- ・思考力・判断力・表現力等を高めるための家庭学習習慣の定着を図る。

・行事等の中で、思考力・判断力・表現力を高める場を設定し、実践力の向上を図る。

4 目指す児童生徒像

・授業や行事の中で、これまで身につけた思考スキルやコミュニケーションスキルを使って、適切な思考・判断・表現を行い、友達と共に共通の目標達成に向かい努力する児童生徒。

5 研究の仮説

小中の教育活動において、授業や活動のねらいに対する視点を明確にした上で、話し合いの場、お互いの意見を交流する場を有効的に設定することにより、児童生徒は学習意欲を高め、他者と係わる力やコミュニケーション能力が高まり、思考力・判断力・表現力を身につけていくことができるであろう。

6 研究の内容

以下の（１）～（３）の部会に分かれて研究を行い、適宜アンケート等を実施して変容を見る。

（１）「あいタイム」のねらいを明確にした効果的な授業づくりの研究（授業改善部）

- ・一人一回の研究授業と授業研究会の実施
- ・学習環境の工夫や、学習課題（スモールステップ～ジャンプ課題）の立て方・与え方や、思考を促すツールの活用や、思考スキルの定着や、「あいタイム」実施や、評価（教師・他者評価や自己評価やルーブリック評価）の工夫

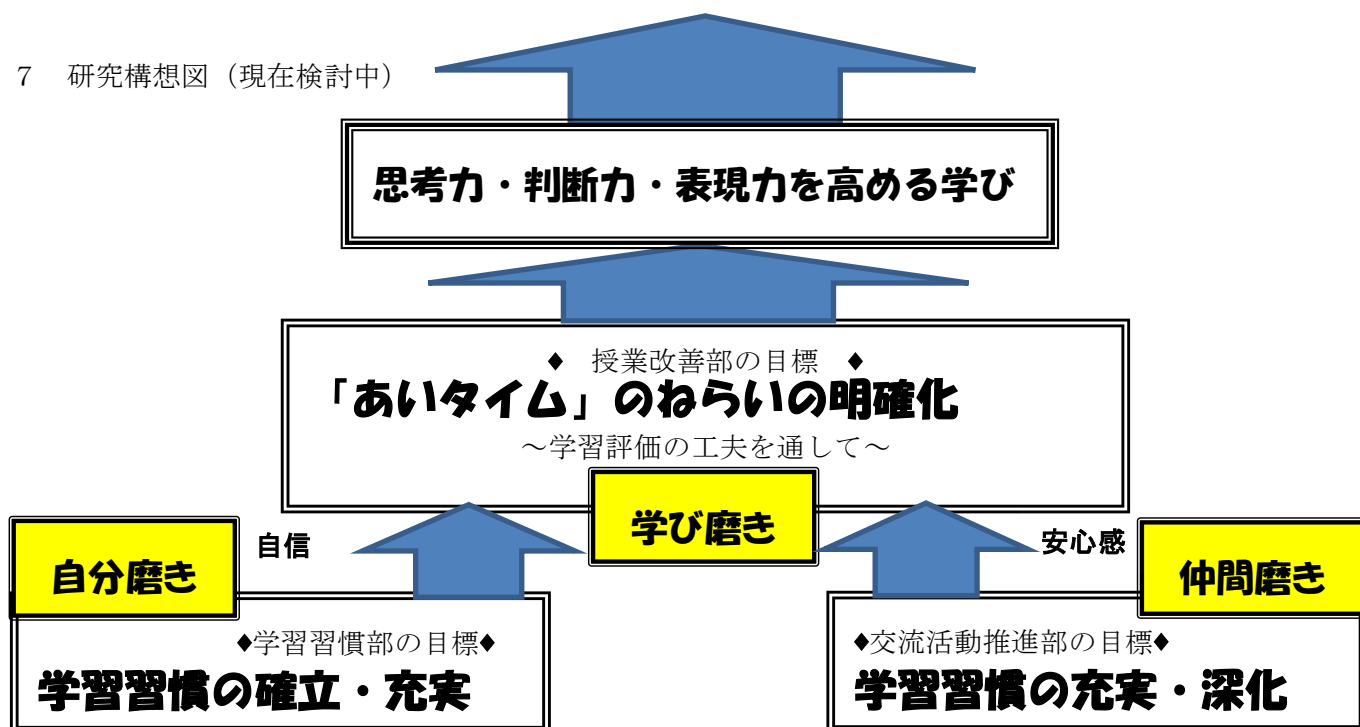
（２）学習習慣の工夫改善（学習習慣部）

- ・読み書き計算をはじめとする基礎基本の定着を目指した取組
- ・基本的生活習慣の定着に向けての実態把握と指導の取組（冊子「馬渡小中学校の勉強のしかた」を元にした学習指導の授業実施、学活ノート改善の取組
- ・思考力・判断力・表現力を高める宿題や定期テスト等の取組
- ・中学校の定期テスト中に合わせた小学生の強化勉強習慣実施

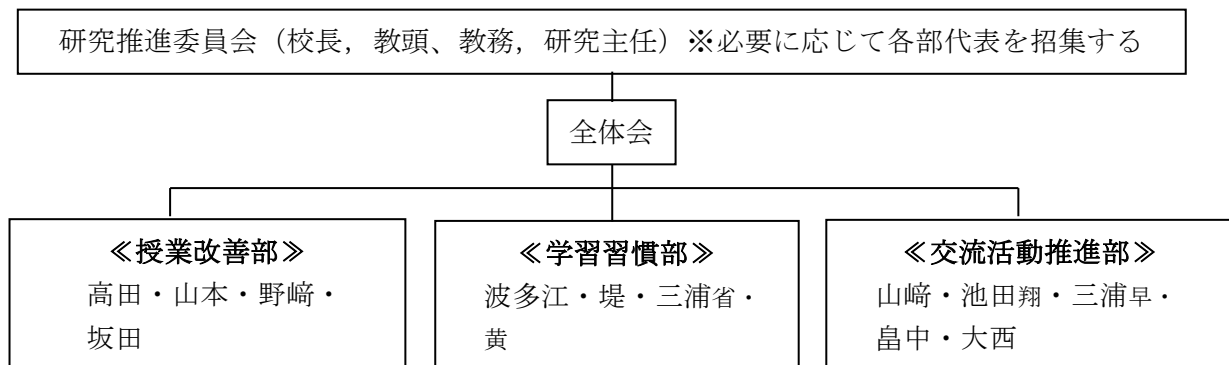
（３）様々な形態での交流活動の推進（交流活動推進部）

- ・文化的行事、体育的行事などの学校行事での小中一貫活動の取り組み
- ・スピーチ朝会等における効果的な表現活動の在り方の検討
- ・全校、小中別、縦割り班別、異学年同士など交流活動の計画と実施

7 研究構想図（現在検討中）



8 研究の組織



9 具体的提案

今年度は、読み書き計算能力・読解力の向上、各教科の知識の定着に取り組む。
宿題の質・量、「成長する思考力」の使い方、リーディングスキルテスト、朝の時間の活用方法、

読解力を高める実践 ← 具体的な方法はまだ分からない（その方法を探る！）
リーディングスキルテストを受けて、どの程度読むことができているのかを把握する

中学校の朝の時間の過ごし方

月曜日 → 朝自習（成長する思考力？）←担任が解説 3つのグループに分けて実施？
火曜日 → 朝自習（漢字テスト）
水曜日 → 集会
木曜日 → 読み聞かせ
金曜日 → はえなわタイム？（英語の単語テスト）

中学校は国語・英語・数学は毎授業後に宿題を出す。

小学校は漢字・計算・音読＋自学に取り組む。

1人1回の授業公開をする。

指導案は簡単に、授業展開（あいタイム）＋ルーブリック評価
授業後に後鑑会を行う。

10 研究計画（別紙に各部の部会長がたたき台を記入の上、5/15の校内研修で提案）

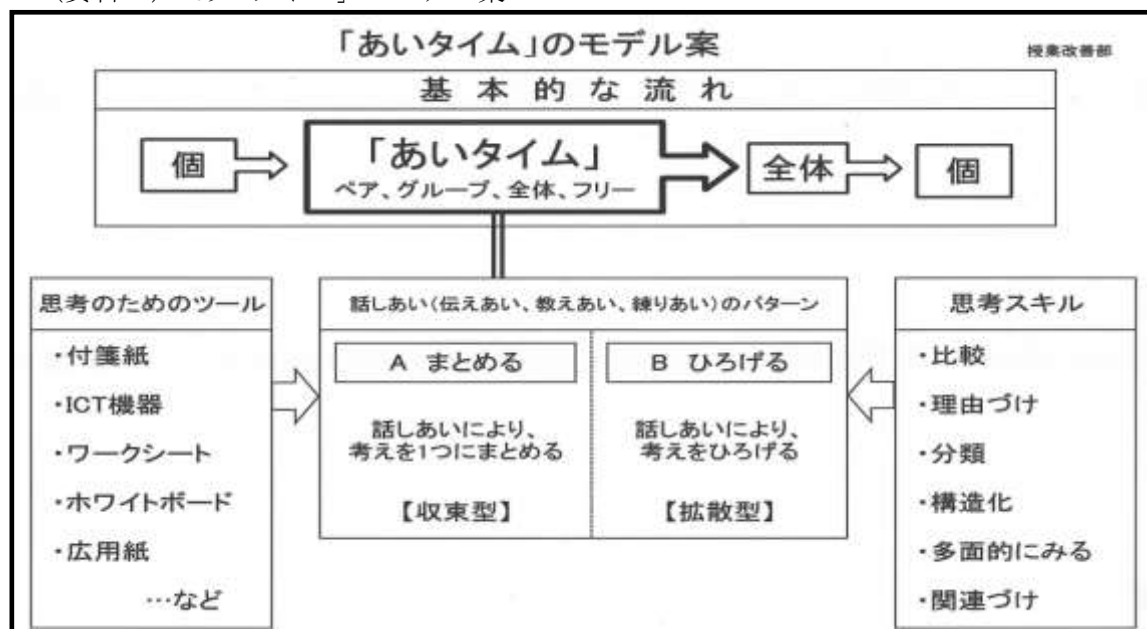
研究計画（★2019 → 07 教務部 → 01 校内研修 → 2019 → 04 研究主任フォルダ
→ 01 毎月のレジュメ → 1回 → 2019. 校内研究. 年間計画 に入力）

部会長を中心に計画を練り、5月10日（金）までに入力をお願いします。

入力を済ませたら三浦に一声おかけください。

月	全体会	授業改善部	学習習慣部	交流活動推進部
1 学 期	4 4/4 第1回 4/10 第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の研究について ・組織と役員決め ・3部グループ研（年間活動計画・今年度の取り組み）後日各部から報告 ・全体研究授業，グループ授業研決め 		
	5 5/15 第3回			
	6 6/12 第4回			
	7 7/17 第5回	リーディングスキルテストの結果考察		
	夏季休業	<ul style="list-style-type: none"> ・各部ごとに日時設定。1学期の研究の成果と課題 ・学テ等分析 ・1学期の振り返り，活動計画及び活動内容修正，アンケート集約等 ・学テ等分析 		
2 学 期	9 9/11 第6回			
	10 10/9 第7回			
	11 11/6 第8回			
	12 12/4 第9回			
冬季休業		<ul style="list-style-type: none"> ・各部ごとに研究のまとめ作成，2学期の振り返りおよびアンケート集計 ・各自研究授業のまとめ 		
3 学 期	1 1/15 第10回			
	2 2/5 第11回			
	3 3/18 第12回			

（資料1）「あいタイム」のモデル案



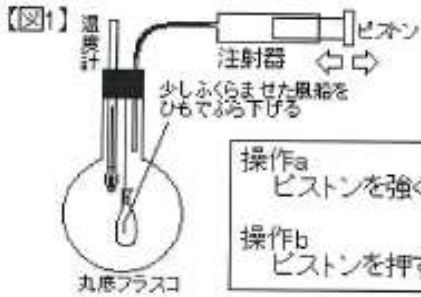
「あいタイム」を位置付けた指導案例

		めあて『安定した時代のもととなった政策第1位を決定しよう。』
2	めあてを知る。	<input type="checkbox"/> めあての「安定」の意味は①「戦いのない（平和である）」、 ②「経済的に安定した」だと確認する。
3	個人で政策の順位を決め、理由を書く。	<input type="checkbox"/> 安定した時代のもととなった政策第1位を決め、その理由をワークシート、付箋紙に書かせる。 S1:「大名統制を第1位にした。理由は大名同士の争いが絶えない戦国時代が起きなくなったのは大名統制のためだから。」
4	安定した時代のもととなった政策第1位について「あいタイム」を行う。	G <input type="checkbox"/> 意見交換し、政策第1位を決定しよう <input type="checkbox"/> 個人の考えを全体で意見交換をさせる。理由を発表しながら付箋紙を応用紙に貼らせる。 S1:「大名統制を第1位にした。理由は大名同士の争いが絶えない戦国時代が続いた。平和な時代が続いたのは大名統制があったからだと思う。」 S2:「私は身分制度だと思う。身分制度は豊臣秀吉の兵農分離からやっと完成したもの。大多数を占める百姓を支配することに成功し、年貢を徴収することができるようになったから。」 S3:「全体の意見としては、S1さんの理由に納得したのでS1さんの政策にしよう。」 S4:「私は全体の意見として鎖国にしよう。当時日本より外国の技術の方が優れており、外国の方が幕府にとって脅威だったから。」 全員:「考えを聞いた結果、大名統制の理由が納得できたので、政策第1位は大名統制にしよう。」
		◆〈思・判・表〉 他者の意見を参考にして、政策決定が変容し、強化し発言を行っている。
		大名統制、身分制度、鎖国の3つの政策の中から、自分の考え（政策とその理由）と他者の考えを比べることで考えを広げ、深めて政策第1位を決定することができる。
5	考えの変化と変化した理由を書く。	<input type="checkbox"/> ワークシートに改めて、政策第1位を書く。政策が変化していれば変化した理由、変わらなければその理由を書かせる。

※「あいタイム」

個人での思考の後に班（ペア、グループ、全体）での思考（言語活動）を行う。「あいタイム」がグループで行う必然性のある言語活動になるような課題設定を行うことが必要である。

雲のできるしくみを理解する (4)組(8)号氏名()



操作a
ピストンを強く引く

操作b
ピストンを押す

操作1 ピストンを引き、フラスコ内の空気を膨張させて気圧を下げたり、ピストンを押して空気を圧縮させて気圧を上げたりしたとき、フラスコ内の温度が上がるか下がるかを確認する。(10秒ほどかかる。温度計の色が薄くなっていくことを確認すればよい。)

	ピストンを引いたとき	ピストンを押したとき
フラスコ内の温度の上下は？	下がった。	上がった。

操作2 雲の材料となる水蒸気をフラスコ内に満たすため、フラスコに水を少量入れて振った後、ピストンを引いたり、押したりして、フラスコ内がくもるか観察してみる。

引いたときの結果：雲らない
押したときの結果：い

操作3 線香の煙を10秒ほど入れた後に、ピストンを引いたり、押したりして、フラスコ内がくもるか観察してみる。

引いたときの結果：フラスコの内が雲った
押したときの結果：雲りが無くなった。

操作1～3を終えての考察 ピストンを引くと、フラスコ内に小さな水の粒ができてフラスコ内がくもる（水の粒（雲）ができる）のはなぜでしょうか？気象の要素である「気圧、温度、露点」などの言葉を使い、分かりやすく説明しましょう。また、自然の中で雲や霧ができるしくみも考えてみよう。

ピストンを引いて気圧を下げると、フラスコ内の温度が下がる。
この時、フラスコ内の空気が露点以下になり、水蒸気が水になり始めた。
線香の煙は、フラスコ内の水蒸気が凝結する役割をしているため、
線香の煙は、雲をつくるためには必ず必要となる。

自然では

あたたかい空気が上昇すると、上昇した空気が、まわりの気圧が低いので、膨張し、温度が下がる。
この時、露点以下になると、上昇した空気の中の水蒸気が空気中の小さなちりや凝結核として無数の細かい水滴や氷の粒となる。これが雲である。



S	A	B	C	自己評価
Aの説明とともに、自然の中で雲や霧ができるしくみも理解し、イラストや口頭で説明できる。	ピストンを引いたとき、フラスコ内の気圧や温度の変化について説明し、さらに「露点」や線香の煙の役割について正しく説明できる。	フラスコ内の気圧や温度の変化について説明している。「露点」や線香の煙の役割についてはどちらか1つ説明できている。	フラスコ内の気圧や温度の変化について正しく説明できない。	S

振り返り：雲ができるための条件などが、詳しく分かった。
人に、教えられたので、良かった。

資料5 「スピーチのめあて」

スピーチのめあて

	小学1・2年生	小学3・4年生	小学5・6年生
話すことのめあて	<p>①じぶんが たいけんしたこと、なかから、みんなに知らせたいことをえらぶ。</p> <p>②じゅんじょを かんがえながらはなす。</p> <p>③あいてに わかるように はなす。</p>	<p>①ふだん、学校や家・地域で経験していることの中から伝えたいことを選ぶ。</p> <p>②自分の考えが分かるように、すじ道を立てて話す。</p> <p>・行動の順じよ、時間の順じよ、場面のうつりかわりの順じよなどを考えて分かりやすく話す。</p> <p>・話の中心を決めて話す。</p> <p>・話の要点が伝わるように工夫する。</p> <p>③相手や目できに合ったことばづかいで話す。</p> <p>・ていねいごをつかう。</p> <p>・声の大きさや はやさを工夫する。</p>	<p>①学校や家庭、社会地域で経験したことや、テレビ・新聞で知ったことなどのうち、自分が興味を持ったこと、みんなに知らせたいこと、考えてほしいことを話題に選ぶ。</p> <p>②考えたことや自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら話す。</p> <p>・順序や話の中心に気をつける。</p> <p>・相手にわかりやすいように話す。</p> <p>・事実と感想・意見の区別をはっきりさせる。</p> <p>・資料や例を示しながら話す。</p> <p>・結論や山場の位置づけを効果的に工夫する。</p> <p>③目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す。</p> <p>・丁寧な言葉遣いで話す。</p> <p>・声量や速度を工夫する。</p> <p>・語感を大切に、言葉を選んで話す。</p> <p>・共通語や敬語を適切に使う。</p>
聞くことのめあて	<p>①はなしの ないように きょうみをもちながら きく。</p> <p>②はなしの なかで たいせつな ことは なにか かんがえながら きく。</p> <p>③きょうみをもったことや、わからなかったことは、かんそうこうりゅうの ときに しつもんを する。</p>	<p>①話の中心は何か、考えながら聞く。</p> <p>・どんな「つなぎことば」を使っているのか、文の終わりにどのような言葉を使っているのかなどに注目する。</p> <p>・話している人の言葉づかいに注目する。</p> <p>②自分の感想をまとめる。</p> <p>・自分の考えと話の内容をくらべながら話を聞く。</p>	<p>①話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。</p> <p>・話している人が伝えたいことはなにか、共に考えたいことは何か、などを考えながら聞く。</p>

	中学1年生	中学2・3年生
話すことのめあて	<p>①自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい話題を選び出す。</p> <p>②自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話す。</p> <p>・自分の考えを明確にしておく。</p> <p>・聞き手の立場や話す場面などを考える。</p> <p>・話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方を工夫する。</p> <p>③全体と部分、事実と意見との関係に注意して話す。</p>	<p>①②は1年生と同じ。</p> <p>③広い範囲から話題を求め、話すことで自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりする。</p> <p>・日常生活で自分自身が直接体験したこと、家族や友達の話、テレビ、新聞・雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなど、さまざまな情報から話題を選ぶ。</p> <p>④話の中心の部分と付加的な部分、事実と意見の関係に注意し、話の論理的な構成や展開を考えて話す。</p> <p>⑤話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して話す。</p> <p>・聞いて分かる語句を選ぶ。</p> <p>・主語、述語が適切に対応しているように話す。</p> <p>・目的や場面に応じた言葉遣い</p>
聞くことのめあて	<p>①話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取る。</p> <p>・話の中心となる話題や要点、話し手の考えや気持ち、立場をとらえ、話の内容を的確に聞き取る。</p> <p>②全体と部分、事実と意見との関係に注意して聞き取る。</p>	<p>①話の内容から自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりする。</p> <p>・話し手のものの見方や考え方と自分自身のものの見方や考え方を対比させて聞く。</p> <p>②話の中心の部分と付加的な部分、事実と意見との関係に注意し、話の論理的な構成や展開を考えて聞き取る。</p> <p>③話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文の効果的な使い方など、説得力のある表現の仕方に注意して聞き取る。</p>